京城日報
朝刊
日本四頁朝刊

畏し戰捷を御祈念
宮中新春の諸御儀

【東京電話】戰捷の新春を迎へて御稜威輝く元旦、宮中におかせられては四方拜御儀を行はせられ、大東亞戰爭下皇國の隆昌を御祈念あらせられ更に厳かなる新年の諸御儀を行はせられた、庭燎はのかに御殿を照す午前五時過ぎ良くも　天皇陛下には綾綺殿に渡御、黄櫨染御袍の御束帶神々しく神嘉殿南庭に下り立たせられ三條掌典長の御先導にて同五時半御屏風のうちの御拜座につかせ給ひまづ神宮を御遙拜、次で四方の神祇山陵を御遙拜遊ばされ皇室の御繁榮、國運の隆昌、萬民の多幸ならびに皇軍の戰捷を御祈念あら（せられた御）…時四十分賢所内陣の…出御、御親拜、皇靈殿…拜、歳旦祭の…（行はせ）られた、次で午前八時…に御祝膳への御後閣…出御、新春を壽がせ給ひ更に大奥にて皇后陛下と御祝ひにて第一線將兵を偲ばせられつゝ野戰正月料理の御祝膳につかせられた、午前十時　兩陛下には再び鳳凰の間に出御、高松宮同妃、三笠宮同妃各殿下を始め奉り各皇族方に御對面、新年の御祝辭をうけさせられた御後皇族方を隨へさせられ正殿に出御、東條首相以下閣員、文武高官などの拜賀式を行はせられ午後一時からはアンリー佛大使以下各國使臣同夫人などの拜賀をうけさせられた、この朝二重橋前には聖壽無窮を祈り奉る民草早朝よりひきもきらず大内山は瑞祥に滿ち溢れた

皇軍、クワンタン占領
東部マレーの要衝鎧袖一觸

大本營陸軍部發表（一日午後三時）マレー東海岸方面を進撃中の帝國陸軍部隊は昨三十一日午前十時二十分東部マレーの要衝クワンタンを占領した

星港に一大脅威

【東京電話】卅一日わが軍が占領せるクワンタンはパハン州東岸クワンタン河口にあり、人口約三千むしろ軍事上、戰略上の基地として重要視してゐた

陸路　シンガポールへ三百八十キロで、シンガポールに對しては一大脅威を與へたものといふべきである、東部馬來縱貫道路および諸道路の交叉點にあたり、かつ殘多の自動車道路が通してゐる、從つてこの地の防備は相當嚴重で、海岸沿ひに鐵條網、要所々々にトーチカを設け開戰前日既に兵約二千を常備し無電局、燈台、飛行場などを設備し平素から商業上よりは

また　軍用道路を有しさきにわが軍が占領したタイポートの東西南北を通ずる軍事上の大要衝である、海岸は遠淺をなし大船舶の運航には不便ではあるが、小船をもつてする同航は相當頻繁である

今次　開戰第一日の去月九日わが航空部隊の活躍によつてこの地の飛行場軍事施設は完膚なきまでに爆撃され同飛行場にあつた敵の重爆戰闘機の大半は爆破され、わがマレー方面制空權獲得に大なる貢獻をなしたことは、なほ記憶に新しい

なほ　プリンス・オヴ・ウエールス兩艦の擊沈されたのもこのクワンタン沖であつた

マニラの陷落目睫

【サイゴン一日同盟】アリツプ通信マニラ電によれば日本軍のマニラに對する攻擊は南北より着々と進捗しつゝあり、殊に南方より進擊の日本軍は同市防衞に當つてゐる米比兩軍の必死の抵抗を排除し著しく前進、今やマニラ周邊では砲聲の轟きも明瞭に聞きとれるに至つた、かくてマニラ陷落は目睫に迫つた感が深い

必死の呼出しに比島應答なし
米本國と無電ぷつつり

【リスボン三十一日同盟】ニューヨーク情報によるとマニラ市内外はわが猛攻の結果三十一日から一日にかけて名状すべからざる混亂に陷つたものゝ如くマニラと無電通信連絡に必死となつてゐる、米信會社が相前後して完全に沈默西岸の諸無電局もマニラ時間三十一日午前六時半（東京時間三十一日午前七時半）限りマニラからの自働式機械送信を接受しなくなりその後十一時ごろ（東京時間正午）に至り漸く手動式モールス符號による送信が復活されたが、それも一時間足らずして不通となつた、さらに卅一日午後から一日にかけてアール・シー・エイ、マツケイクローブ、プレスワイヤレス四通し米國側からの必死の呼出しにも拘らの應答を與へなくなり米國に入るマニラ戰況ニュースは軍用無電で斷片的にワシントンへ集るだけとなり米側の憂色深いものがある、かゝる情勢にかんがみ米國新聞通信社はすでに特派員の身邊の危險を懸念して萬全の措置を臨機處置に待つむね繰返し上記諸無電局を通しマニラ宛放送してゐるが果して受信されてゐるかどうか全く不明である

重慶に連絡泣訴

【リスボン三十一日同盟】米比間無電連絡が卅一日來ばつたり絶えたため米國無電および通信關係者は事情探査とマニラの戰況把握に大童だが、間接的にもまだ連絡がとれてゐないやうである、サンフランシスコ某無電會社の卅一日の重慶に對する無電發信をリスボンで傍受したところによれば同社はマニラとの連絡がないため重慶との連絡を要望、次の通り訴へてゐる

サンフランシスコ當社とマニラとの連絡なし、ついては貴方より當方に對し常時連絡方相煩はしたし

朝鮮神宮歳旦祭
南總督・板垣大將ら參列

輝く日本の新春、二千六百二年は明けた、この日天晴れて一點の雲なく南山に陽光照り映え榮光ある帝國の明日を力強く思はしめる、世界歴史に燦たる金字塔を打ち建てた大東亞戰爭勃發初の歳旦祭は神宮において顏宮司祭主、南總督以下在鮮の顯官、名士多數參列、午前十時より嚴粛裡に行はれ、式典は伶人の奏する雅樂に頭を垂れ神職の四方に…獻饌を終へ顏宮司祝詞を奏上、つゞいて南總督、板垣大將（中略）武官、道民、府民代表玉串を奉奠し…撤饌、閉扉して同十時四十五分…終了した【寫眞＝南總督の參拜】

マレー、比島の戰果

大本營陸軍部發表（一日午後六時）帝國陸軍航空部隊はマレーおよび比島方面において數日來極めて果敢なる進撃を續行しある地上部隊の戰鬪に密接に協力しつゝあるのほか左の戰果を收めたり

マレー方面

一、十二月廿八日マラツカ海峽の敵艦船を攻擊し、三千トン級汽船一隻を破壞炎上せしむると共にクラン西方約四十キロの海上において敵潜水艦一隻を發見急降下爆撃によりその一隻を擊沈し、また二十九日クラン西方海上において敵驅逐艦を爆撃し必中弾一を浴せ大なる損害を與へたり

二、十二月廿九日および卅日深夜選抜せる部隊をもつてシンガポールを奇襲し北部燃料油槽群五ケ所を炎々炎上せしめ飛行場施設を破壞せり

比島方面

一、十二月廿九日正午爆撃機大編隊をもつてコレヒドル島要塞中樞部を爆撃しこれに致命的打撃を與へかつ三十日マニラ灣西方バタン半島の要衝マリベレスを爆撃しその軍事諸施設を潰滅せり

二、十二月三十一日バタン半島方面に潰走中の敵自動車群約百輌を反復攻撃しこれに多大の損害を與へ全機無事歸還せり

將兵の意氣既に星港を呑む
正月初攻擊一段と快調

【マレー前線〇〇一日同盟】大東亞戰爭第二年昭和十七年元旦をマレー戰線に迎へた皇軍諸部隊はゴム林に、ジャングルに、椰子の木陰に、また印度洋の海濱に占領地に、また殘敵の白く輝く初日の方を仰ぎ一齊に遙か東北方の皇居に向ひシンガポール擊滅大東亞戰爭完遂を誓ひ、嚴肅な遙拜式を行つた、かくて松も竹も酒もない炎熱下に精鋭機械化部隊は敗敵を求めて進擊また進擊、初攻擊の開始に一段と快調を加へた、正月戰線はペラ河東南方地區に大きく展開後續部隊また怒濤の如く同地區に進出しつゝあり敵マレー中部の抵抗線は早くも一角が崩れシンガポール軍總撃の様相を漸く濃化させつゝ將兵の意氣は既に敵本據を呑むの概がある

泰國銀行設立
十七日創立總會

【バンコック三十一日同盟】大東亞經濟體制の再編成を急いでゐる泰國は今回泰國銀行を設立することゝなつた、今日まで泰國の金融界を牛耳つてゐたのは香港上海銀行、チャータードバンク及びマーカンタルバンクの英系三行でその預金總額は二千萬バーツに上つてゐる、大部分は泰人および華僑の預金である、しかるに資田は主として英、米、印度、デンマーク人などに行はれてゐ、その大部分は急速に回收不可能で泰人および華僑の預金は凍結されたまゝ引出不能に陷りこのまゝ放置する時は徹に經濟活動の停止を招來するのみならず、國內治安上由々しき重大問題を惹起する虞れがあるので、これら預金者を保護するとゝもに國內金融の圓滑な運行を期するため今回泰國銀行が設立されることゝなつたもので、一月十七日創立總會が開かれるはずである

同行は資本金二千萬バーツ（邦貨換算約二千五百五十萬圓）うち半額政府出資、殘餘は民間より公募し株主は泰人に限ることになつてゐる

新秩序建設の大業に
アジヤの同志結束
日滿華交驩放送　東條首相放送

【東京電話】大東亞戰爭の輝く戰捷裡に迎へた新年を壽ぎ一日行はれた日滿華三國首相の交驩放送で東條首相は同夜七時半首相官邸より次の如く放送した

首相放送要旨

世界未曾有の　轉換期に際し日滿華三國の提携いよいよ緊密なる裡に本日ここに多事にして多幸なる新年を迎へたが、昨年末帝國が米英と干戈を交ふるに至つた所以は米英の壓迫挑戰により日滿華を中核とする東亞の安定に關する帝國積年の努力が悉く水泡に歸し帝國の存立まさに危殆に瀕せんとしたためである、而して帝國の念願するところは亞細亞を共存共榮の本然の姿に復し世界の平和に寄與せんとするものであつて

日滿華の提携　年とともに緊密の度を加へ友邦滿洲國と盟約を固うしまたさきに佛印と共同防衞の約を結び泰國と攻守同盟を締結したことはすべてこの理想に出たものである、今や陸海軍將兵は廣大なる地域にわたり各地に奮戰力鬪しハワイの海戰においてアメリカ太平洋艦隊の主力を覆滅、またマレー沖の海戰においてはイギリス主力艦を一瞬にして擊沈せしめもつて米英海軍へ致命的打撃を與へ全世界を震駭せしめた

そののち幾何　もなくして香港は陷落し百年にわたるイギリスの東亞における前進根據地はこゝに全く潰え『マニラ』『シンガポール』などの陷落も時間の問題となり、かくして東亞の天地より米英の勢力が驅逐せらるゝ日もまた近き將來である、かくして帝國は外、征戰に從ふものも內、銃後を護るものも總力をあげて勇戰奮鬪してゐるが盟邦滿洲國、中華民國において內政諸般の困難を克服して、整備せられ善隣友好、共同防衞、經濟提携など不動の原則のもとに帝國と一徳一心東亞建設の任を分擔せられてゐることは感激に堪へない

而して數百年　年間心ならずも米英の暴政下に呻吟してきた亞細亞十億の民は今やわれわれの眞意に協力し共鳴し今や躍如たるものがある、之ら同志が速に東亞新秩序建設、世界新秩序建設の大業に參加せられんことを期待するものである

東條首相

日本軍隊の大戰果に驚嘆
スターマー駐支獨大使北行

【釜山電話】赴任の途にある新任駐支ドイツ大使ハインリツヒ・スターマー氏は大使館參事官エリツヒ・ボチエ氏を同伴一日朝釜山發ひかり"大陸"で北行した、途中北京に立寄つたのち南京に向ふ豫定であるが、スターマー新大使はかつて日獨伊三國同盟締結の影武者的存在としてその功績を謳はれた人であるが、釜山で左の如く語る

元旦の佳き日に大陸前進兵站基地である朝鮮を通過することは大變愉快であり、お目出度い限りである、途中京城に立寄つて南閣下にお會ひしたいと考へてゐたが赴任を急ぐためそれが出來ぬのが殘念だ、大東亞戰爭始つて以來日本軍隊の輝く戰果はまことに驚異的なもので深甚の敬意とお喜びを申したい、今後とも樞軸國は更に一段と固く結んで世界新秩序建設のため邁進するとともに日本軍の武運長久と戰捷をお祈りしてやみません

兵役改正法案等
十一件、閣議で決定
七十三件　七日までに本極り

【東京電話】政府は卅一日午後二時より首相官邸に恒尾の閣議を開き今次議會提出の法律案要綱につき審議の結果取敢ず左記十一件の要綱を決定、午後四時散會した、なほ一月二日午前十時半より定例初閣議を開き殘餘の法律案要綱を審議し七日までに七十三件全部の要綱を決定し十五日の閣議に附議したうへ議會提出の手續をとる豫定である

一、北支那開發株式會社法中改正法律案要綱

イ、政府は北支那開發に對しその資本の半額を限り出資することとし、金錢以外の財產をもつて出資の目的となす場合において…の限度を超へて出資する…得る

…

三、退役將校の豫備役復歸に關する法律案要綱

一年志願兵または一年現役出身の將校にして現に年齢五十年未滿にして退役に在せしむるものはこれを豫備役に編入せしむることゝす

四、兵役法中改正法律案要綱

イ、國民兵の召集實施に伴ひ國民兵の服役、國民兵に對する簡閱點呼の實施、國民兵に對する戶籍上の身分の申報など國民兵の取扱に關する規定を設け

ロ、補充上必要ある場合の徵兵適齢低下などを勅令をもつて定め得る

ハ、海軍の必要とする補充兵の增加に伴ひ第一補充兵役期間を延長し

ニ、治安維持法により豫防拘禁所收容中のもの徵集延期をなし得

五、共通法中改正の件要綱

國民兵召集法の改正に伴ひ第二國民兵役にあるものと雖も兵役に服するの義務なきに至りたるに非ざれば他の地域の家に入ることを得ず

六、民法中改正法律案要綱

イ、私生兒の否認を廢する

ロ、父または母の死亡後と雖も三年內に限り認知の訴を提起することを得

ハ、家督相續人または遺產相續人たるものが死亡し、または相續權を失ひたる當時胎兒たりし直系卑屬もまた代襲相續人となる

七、獸醫師法臨時特例に關する法律案要綱

農林大臣は當分のうち獸醫師法第二條の規定に拘らず未成年者に對し獸醫師の免許をなし得

八、郵便貯金法中改正法律案要綱

國民に新たなる貯蓄目標を與へ貯蓄心を振起せしめ貯蓄額の增加をはかるため一人の郵便貯金總額制限額三千圓以下を五千圓以下と改めまた長期貯蓄の預入手段として割增金附郵便貯金切手を發行す

九、小型船舶等乘組員に船員手帳を受有せしむるの件法律案要綱

卅トン未滿の船舶乘組員その他船員法の適用を受けざる船員に船員手帳を受有せしむ

一〇、地方鐵道補助法中改正法律案要綱

地方鐵道の現狀にかんがみ輸送力の增強をはかり、かつその運營を保持し効用を增進せしむるため現行補助制度の期間をさらに五ケ年間延長す

一一、鐵道敷設法中改正法律案要綱

國內マンガン增產計畫に對應し北海道渡島半島におけるマンガン輸送のため鐵道敷設法豫定線木古內、福山間鐵道をさらに大島まで延長す

隨想　必勝の春に寄す
制海權の確保
海軍大佐　黑木剛一

制空權を含んだ制海權の確保といふことの重要性が、最近になつて國民一般に理解されて來たやうだ。制海權なくしては國家の發展はあり得ない。卑近な例を取れば、制海權とは、家を建築するとき、まづ土地を買入れ、地均しをし、基礎工事をすることゝ同樣な意味をもつてゐる。基礎工事の上に豪華な家が建てられるやうに制海權の上に、高度の文明、文化が加へられてこそはじめて偉大なる國家の削生があるのだ。大東亞戰爭勃發によつて、制海權の重要性が益々明確にされて來た。

われわれが日清、日露の兩戰役を振り返つてみるとき、制海權の大きな響きに驚かされる。既ち日清戰役においては過去三千年東亞に覇を稱へてゐた支那を、黃海々戰によつてその地位より顚落せしめ、また日露戰役においては、日本海大海戰において世界最強を誇つたロシヤの太平洋方面進出の野望を制止せしめた。

しかしこの制海權の確保といふことは、たゞ近代化された裝備を持つ軍艦、その他海洋兵器と膨大な兵員だけでは不可能なことで、これには民族の血に潛む海洋性が最も重要なのだ。我ところに、悠久二千六百二年の輝しき歷史を持つ黑潮民族と考へられ

我日本人は黑潮の流れると海に生き、海に憧憬する心は我我の心の底に流れてゐる。ゴビ沙漠からは海洋性は生れて來ない。古來どんな民族でも民族が大陸を移動して行く場合豐饒な、肥沃な土地を目指すことは民族移動の方則であるが、海洋においては海流が民族移動の方向を決定せしめる。

同じ海でも日本の近海を流れる黑潮はあたゝかく、透明で、色が美しく、魚類は豐富で、どんな素晴しい海は地球上どこにも見當らない。怒るときは大いに怒るが、平常は母の如き慈と愛とをもつて我々を迎へてくれるのが、日本の黑潮だ。この黑潮が藤田東湖先生の『正氣歌』にある様に、火山島日本の周圍に流れてゐる我々は富士山、櫻と共に日本の東を流れる大黑潮に、永遠の生命を享けてゐないと誰が云ひ得よう。黑潮によつて育てられた我々が、黑潮の根源地南方に伸びて行く。いや、歸つて行くのは自然の理で、故郷に、母の懷に、歸つて行くが如きものである。

フイリツピン、ニユーギニヤは地形上から見ても日本の連りではないか。我々がさういふ極めて自然な根元にまで戻つて、家屋建築を擴張することは歷史的必然性を持つてゐる。

南洋に打ち立てられる制海、制空權こそ我が日本帝國海軍の二千六百二年の目標となる譯なのだ

【寫眞＝黑木大佐】

浙東に新作戰

【〇〇基地一日同盟】中支軍一日午後三時發表＝江南の敵軍主力を葬りたる中支軍は引續き浙東の山野に新作戰を展開、本一日未明錢塘江南岸〇〇、〇〇、〇〇方面の敵を擊碎すべく破竹の進擊を開始せり、陸軍航空部隊は地上部隊の攻擊に密接に協力しありした

米太平洋艦隊司令長官就任

【ブエノスアイレス卅一日同盟】新任アメリカ太平洋艦隊司令長官ニミツク提督は卅一日ホノルルにおいて正式に就任した

華府に燈管
米、連敗に怯ゆ

【ストツクホルム三十一日同盟】ワシントン來電によれば相次ぐ敗戰の報に怯える米國ではいよいよ三十日夜を期して首府ワシントンおよびその近郊を含む約千萬の住民に燈火管制を行ひ、平常ならばポトマック河の水、灯と相映じて二十哩も遠くから望見されるワシントンの動行もこの夜は全く消え失せて靜まり返つた、しかしてラガーデイヤ市民防衞局長官は燈管の結果は豫想以上良好であつたと發表した

ちなみにビットル司法長官は最近太平洋岸において無線電信による秘密通信が行はれてゐるとの陸軍當局の報告にもとづき二十一日第十九軍管區下のカリフオルニヤ、ワシントン、オレゴン、モンタナ、アイダホ、ユタ、ネヴアダ、アリゾナ等の諸州における日獨伊人所有のラジオ短波受信器および寫眞機を沒收することになつた旨發表する等いまや米國は底知れぬ恐怖に怯えてゐる模樣である

本社より國防獻金

一金　壹萬圓也　陸海軍へ　京城日報社

一金　參千五百圓也　右同　本社々員一同

鮮內防空監視隊慰問金

一金　壹萬圓也　京城日報社

右本日それぞれ獻金の手續を致しました

昭和十七年一月二日

京城日報社

偉なる哉將兵の魂 見よ皇軍の驚異的戰果

朝鮮軍報道部長 倉茂周藏

◇…倉茂報道部長

客臘十二月八日、米英兩國に對し畏くも宣戰の大詔が渙發せられた。そしてそれが同日正午のラジオで奉讀せられたるを拜承し皇軍一下の感激、遂に萬歲を伏し拜んで感涙を禁しなかつたものがあつただらうか。みんな泣いた。一億擧げてみんな泣いた。殊にわれく軍籍にある者は當然のこと、この御言葉の御一語々々が身に沁みるやうに嚴しく、有難く、勿體なく、感激にただひた泣きに泣いたのである。

支那

事變は今年で六年を迎へた。しかし蔣政權はまだ最後のあがきをつゞけてゐる。表面から見れば、この事變は同じアジヤ民族同志相討つの悲劇である。しかし實際は日本對米英兩國との鬪ひであつた。蔣政權の背後にある米英は、この六年の間日本に對して、支那人に對して、どれだけ辱い援助を拂はせて來たが、支那大陸における米、英の行動こそは、わが將兵にとつて如何に口惜しきものがあつたことか。それが「今こそ天下晴れて米英を敵に廻して戰へる」『米英兩國に對する宣戰の御詔勅が下つた。これで帝國の戰友も喜んでくれるんだ』

米國

と英國とが一切の謀略を突き破つてわれくの完全なる敵國になつたこと『今こそ四ツに組んで戰へる』これが全皇軍將兵の待ちに待つてゐた喜びであつたのだ。このはづみにはづんだかうした將兵の意氣が、戰爭勃發と同時にあれだけの戰果を擧げたことに不思議はあるまい。このあまりにも大きな戰果の具體的內容は改めて此處では述べまい。

しか

しこれだけ是非いつておきたいのは、この大東亞戰爭勃發直前までの大陸の第一線は南北總延長に一萬五千キロに及んでゐたことである。先づソ滿國境の五千キロ、さらに支那の四千五百キロ、南方五千キロ、これを繼ノ戰線二千五百キロに比較した場合その第一線が如何に長く又これを守るにどれだけの兵員が配備されてゐたかゞ大體想像がつくと思ふ。

その

戰線下にありながらも、なほ綽々たる餘裕の中から險しくは、海軍と緊密なる協同作戰下に香港を屠り、又マレー半島、比島、グアム島に對し世界史上に不朽の光明を發揮した敵前上陸を敢行したのである。ミツドウエーもウエーキ島も叩きつけたらこれを作戰的に觀た場合、マレーを制壓された英國は豪洲と印度との連絡が遮斷され東亞への通路が完全に封鎖され

グア

ムミツドウエー、ウエーキ島を失つたアメリカは東亞への前進基地をなくしたことになる。敵等の誇りたる所謂ＡＢＣＤ包圍陣は、皇軍の武力一閃、三遍の石壁に曝された結果になつたわ

けである偉なる哉しかもそれが僅かに旬日足らずで行はれた驚異的な戰果であるとは

この

底の知れない皇軍の戰闘力は何處にひそまれてゐるのか、もちろん精鋭を誇る兵器の數數と日夜けふあることを期して命懸けの訓練の賜物でもある。しかしそれだけでは決してない。問題は「魂」である。わが光輝ある軍隊の精神によつて鍛へに鍛へられた將兵の「魂」が今日のこの驚異をなしとげてくれたのである。

わが

皇軍將兵こそは、御稜威の御下、國と共に生き國と共に死ぬる大御心の下に從つて一塊の火と燃え飛ぶる炎である。そこに一片の個人觀もなければ自由觀もない。その壯絶たるやたゞ稀々たる死生を超越した『君國のため』たゞこの五文字に盡きる、無敵皇軍の名はいふまでもなく此處から出發するのである。

今や

わが將兵の必勝不敗の信念いよく固く、灼熱せる戰意の絢なその戰意とともに軍は益々健在なり。『大丈夫だ留守はしつかり守つてくれてゐる』前線の將兵はかういつて、銃後を顧ふること無く、年改まるとともに、又新たなる作戰下にあつて又さらに一段と赫々の戰果を擧げるべく黙々として前進を開始してゐる。

いま

さらいふまでもなく近代戰は總力戰である。半島二千四百萬民衆も前線將兵の銃後への信念を我と我が胸臆に刻みこんで銃後萬全の努力を擧げ國內体制の總強化を、光輝ある皇紀の二千六百第二年の元朝に先づ約束してもらひたい。

皇國の隆替この秋

海軍大臣 海軍大將 嶋田繁太郎

【東京電話】大東亞戰爭下第一回の新年を迎ふるにあたり謹みて寶祚の無窮と聖壽の萬歲を謹み奉り、わが國威の隆昌を慶祝し得ることはわれら一億國民がひとしく無上の光榮として感激おくあたはざるところであります

開戰

以來帝國海軍は終始陸軍と緊密なる協同を保ち、太平洋上各方面にわたり既報の如く偉大なる戰果を收め、帝國の威武を中外に宣揚し得たのでありますがこれもとより御稜威のしからしむるところであり、またわが忠勇なる將兵の盡忠報國と過去數十年以來丸四年半を支那の安…

今や

世界は新秩序の…國立指導に區分せられ、洋の東西をあげて一大戰場と化し、人類史上未曾有の激動を展開しつゝあるのでありますが、我國は遂に決機として世界新秩序の建設を開き、次で支那事變を期せんがため万難を排するに至つたのであります、然るに於て擢取蓄飽く所を知らざる米英兩國は故意に事變の解決を妨げ、不逞勢力を使嗾しわが國是戰目的の達成を阻止するに狂奔し來れるのみならず、平和の煙幕に隱れながら經濟的壓迫と軍事的な挑戰を日と共に露骨化し…

驕傲

…しめんとの策謀は實に驚くべきものがあつたのであります…をもつて敵の頑冥…數日を出でずして彼…忍に隱忍を重ね世界の野望を打破するの…立至り、終に昭和十六年十二月八日宣戰布告の大詔…

八紘一宇

板垣軍司令官試筆

蠢動策謀の途なし 抗戰重慶へしやんこ (六)

英米ソ三國會談

來間氏 米國では英國に對する武器貸與法を中止するとか決意を衞して…ゐるとか傳へられるが、中

杉森氏 さうなることがソ聯は…

…止は出來なくともどうしても少くなつて來る、英國を援助けることは出來ない、もう一つ考へられますことはソ聯でございます、今度の大東亞戰爭が始まると、英米ソの三國會談とか軍事同盟とか外電に見えてをりますが……

長谷川少將 これはやるまいと思ひますね

來間氏 今のやうになりますと、米國に喰付いてゐてもしやうがないといふことにソ聯がなれば……

杉森氏 米國の手はそこまで屆かないから、ソ聯と何時まで米國と……。

來間氏 さうなると、ソ聯が折れて獨ソ休戰とか、日本に對してもおちよつかいを出さない形勢になるといふ風に考へられますが……

杉森氏 ソ聯のために賢明な道であると思ふ第一の理由は長谷川さんからお話がありました通り、位置の上にソ聯は日本の手も屆くひまに、ドイツの手も屆く、それから日本は世界無比の海陸兩軍備で強固であります、それは陸軍としてはドイツは陸軍國、私は詳しいことは存じませんが察しソ聯としては今まで米英あの二つの、既に駄目になつてしまひましたけれども、ついに最近までは米英といふものは何れも海軍國であり、陸軍としてはまるで恐るゝに足らぬものであつたことはソ聯もそれをよく知つてゐることであります

そこで海軍國として米國といふものが、或は滿州或はイランの方から少くとも武器のものを送つてくれた、ところがつまりあゝいふ風…

長谷川少將 問題を前にして皆聽きたい研究したいことはこれから米國との戰はどこまで戰つたら奴が頭を下げるか、とつちの目的を達するか、それが聽きたい問題だらうと思ひます、杉森先生邊りからそれを聽いては……

重慶の抗戰力

ビルマ公路を衝く

中島少佐

天與の試煉突破

殖銀頭取 林繁藏

◇…林殖銀頭取

この

國難を特てられたる決死報國の皇軍將士に對し只感激感謝の外はないのであります、かくて久しく我等の痛嘆したる重苦しき東亞の情勢は一瞬にして掃拭し去られたゝに飛躍に赫く皇紀二千六百二年の新春を迎ふるに至り大御稜威の下、生を享けたる國民の慶び勝に溢るゝの思ひ得ざるものがありまして、眞に感激の極みと申さなければなりません、今後日を追つて戰果は擴大せられ、明朗東亞の新境地は次々と打開せられて行くと同時に、廣汎無限なる東亞の諸資源開發策が世紀の東亞に併進せられる事必至と考へられるのでありまして

◇…嶋田海相

殊に 銘記すべきは畏くも伏見宮博恭王殿下が昨年春まで約十年の御久しきにわたり軍令部總長として御自ら作戰用兵の衝に當らせられた偉大なる御功績であり…

全國

民諸君もまた愈よ心を引緊め米英を完全に屈服せしむるまでは石にかじりついても勝抜く確固たる決意が肝要であります、これこそ皇國の隆替を決すべき大東亞戰爭に際し曠古の大業に奉仕し得る光榮ある皇國民の昭和十七年々頭の覺悟でなければならないと信じます

たゞ

今回の東亞戰爭が如何程長期戰となり幾多の困難が豫想せられるに致しましても、吾々の體驗すべき困難こそはこれを敵國米英の蒙むる所に比較すれば物の數でなく、即ち持てる國と自稱したる米國は國内過剩物資氾濫の除央に惱まされつゝ、しかも一面戰時緊要なる物資の供給缺乏に困惑すると同時に、美名の下に他民族を搾取酷使し來れる彼等の限界は心ゆく許り帝國のため剝落せられ時の經過とともに我國の歸反に遭遇すべきこと必至なるべく英國の如きは東亞を追はれて衣食にも窮するの慘状に顛落すべき運命にあるに反し、我國は時とともに共榮圏の擴大強化を推進し、東亞自給體制を完備して

日と

共に明朗強化はるべく、この間我の要求は成功隆昌に進行すべき情勢に在るは容易に獲取し得らるゝ所にして、我國の現狀こそは多難なれども而も至幸にして、前途に一大光明と無限の希望とを有するものと申すべきであり、我等一億の民は今こそ愈堅くつゝ一丸となり必勝の信念に燃えつゝ、老獪英米を打倒して最後の勝利を確保するまで斷じて矛を收め

顧み

れば昨年の我が經濟界は政府の適切なる施策によつて物價は安定し、公債の消化も順調に進み、戰時財政金融政策は大體において成功裡に經過したることは御同慶至極でありまして、更に非常時金融對策の確立、官營機構の改革、各種産業部門の統制強化、産業設備營團の成立、海運非常管理等、戰時經濟の完璧が圓滑に實現せられる決戰態勢下寸毫の不安も要せざる態勢の完了を見たることは國民の頼もしき意を強うする所…

戰時

食糧對策に至大なる影響を爲し得たる事は、吾々の慶びとする所であり、また朝鮮…

また

突進すべき意氣を旺ならしむると共に帝國戰力の低下に伴ふ卑怯なる宣傳戰、思想戰の謀略にも深く思ひを致し苟くもかゝる二國の謀略に乘ぜらるる隙…

…北鮮電化事業も著るしき…

本社懸賞 勅題寫眞『連峰雲』 特選一席 中野文雄

反轉

するの好運に惠まるるものがあるとさへ豫感せらるゝ狀況にして、私は切に其時期の一日も速かに到來せんことを祈念致しておるのであります、當行は昨年朝鮮殖產銀行令の改正により農業、林業、漁業の金融は勿論一般事業金融についても一層時局に即應せる金融をなし得る體制におかれたのでありまして私共一同協心戮力その責務の重大なる點に深く思ひを致し、今後益々國策の線に沿うて半島金融の疏通に精勵努力し、一層職域奉公の赤誠を披瀝し以て當行の使命を十分に果して參りたいと存ずる次第であります

…の事な くば、かゝる銃後の勤めにおいて相當の成果を擧げ得られざるはずなしと堅く信ずる者であります、而して今や論ずべき時にあらずして萬事唯實行あるのみ實踐躬行の一事あるのみと申さなければなりません、吾々は努めて内に省み相互激勵しつゝ相助けて銃後の護りを全うに致さなければならぬと存じます、これと同時にまた一面吾々は恣に戰時における偉大なる勝利に心の緊張を弛緩せしむるが如きことなく、常に勝つて兜の緒を締むる心境を忘れず、百折不撓の大勇猛心を胸奧深く秘めつゝ、真の指導者たるべき名譽の誇りに再び迎へ得ざる絕好の歷史的一大聖業の完遂に突進

心眼に赤誠燃えて
大前に祈る盲ひ人
この日神宮參拜者十五萬

新世紀第二年目、元旦は陽光麗かに輝き映える南山から明けてゆく、明けんとして未だ明けやらぬ闇をついて、朝鮮神宮の御前に誠心を披瀝する赤子の群は引きも切らず、陸續としてつゞく、人、人、人の波…七時、八時、九時、次第に人の波は大きなうねりを見せて午後四時現在で十五萬人、昨年の參拜者十三萬人に比べて二萬人の增加、午前十時半人の波にもまれながら杖をついて三百八十四の石段を覺束なげな足どりで上つて行く盲人の一團が人目をひいた

昨春京城府内に結成された半島盲人の占卜組合員が感激を心眼に爆發させての參拜姿である、神前に進んで聖壽萬歲を唱和する盲人の群は、一人々々、深く沈思した日本人の感激に頰を顫はせてゐる、たとへ階段を上る足は覺束なくとも、心に抱いた確固たる殉國の心はいさゝかのゆるぎも見せない、しかも彼等の心眼には世紀の聖業大東亞戰爭遂行下の日本の姿が、南山に群れ集る蒼生の群がありくと映つてゐるのだ【寫眞＝參拜する占卜組合員と板垣大將と乾杯する南總督】

前途ますく多端
進まんかな二千四百萬班員
DKから　南さん全鮮へ檄

このおほいなる晨、南總督は黃金山に明けゆく東亞武昌門の曙光に迎へ觀世音を念じつゝ正にDKのマイクから全鮮の愛國班員諸君「明けましてお目出度う」と愛國日常生活に集る半島二千四百萬班員に光輝ある年頭の檄をおくつた、これより先き午前四時

物音一つしない曉闇の

神域のしじまに早くも身を淨めた總督は白木造りの神殿にうやくしく元旦の御禮火を進めて後、明け切らぬ神域に悠々と歩を運んでおほいなる世紀の朝を凝望しながら赤樫の木刀にえい―えいッと三百餘鋭い破邪の聲を振るくれてはまた靜かに歩を運んで、大東亞の門出に備へる英氣を養つた、九時―敵一戰、功四級など十六個の勳章に國民服の胸を飾めた總督にとくくと微笑をほころばして放送室に着いた〝諸君我等は今、日本の興亞大業を妨害し來つた世界の公敵米英二國を

天に代つて擊滅すべく

して正義の大戰爭を進めつゝあるのである、我等の前途にはまだ幾多の困難が橫たはつてゐるが、然し光明に輝いてゐる、我等一億の總力によつて大東亞戰爭を完遂すれば日本は將に名實ともに世界一の王座を占めるのである、これ實に我等にとつて千載一遇の好機といふべきである〝總督は勳章の輝く胸をぐつと張り〝國家興隆の最前線に立てる二千四百萬班員の心構へについては私はこれまでしばくく諸君に注意を促して來た、今更改めて謂ふことはないが、ただくり返していふ、油斷は大敵、勝つて兜の緒を締めよ、ますます忍苦鍛錬必勝の決意を固めて

この輝しき元旦に當り

諸君は各家庭に高らかに杯を舉げ、皇軍の無窮と皇軍の赫々たる戰捷を祝し、明朗顧達、堂々たる一年の行進を起さんことを希望する次第である〝と殉國の精神をこの一瞬に傾けて光輝ある世紀元旦の放送を終つた放送室は塵一つなき無窮の空を映して輝き、見はるかす山も街も家も人もおほいなる朝の光に輝いてくつきりと東亞黎明の姿に燃い

羅南の歲日祭

【羅南支局電話】興亞の朝は高らかに明けた、聖戰下五たび迎へる元旦ながら昭和十七年元旦は感激更に一入新たなるものあり、殊すお目出度うの祝詞にもなにかしら力強いものを感ずる、戰時運動の堅忍の一年が朝陽に輝れて紫雲輝くところ軍部羅南では、斯腕の寒氣を衝いて上月師團長、尾崎中將、大野知事など軍官民多數が羅南神社大前に參集、戰捷の歡を續きつゝ、歲旦祭を執り行ひ、終つて國旗揭揚を行ひ下に參集、大東亞戰第二年年初の

わが精銳、長沙周邊に肉薄

【漢口卅一日同盟】汨水を渡河、強風を衝いて殲滅戰續行中の我精銳の先鋒部隊は卅一日午後早くも長沙東方十五キロの椰梨市に進出、隨所に敵第卅七軍を擊破し長沙周邊に迫りつゝある、わが荒鷲の偵察によれば長沙市民は早くも南方に向つて避難を開始しつゝある　破邪の劍をかざ

光州でも【光州支局電話】一億國民感激の新春を迎へた光州官民は光榮の歲を寿ぐ爲、元旦黎曉、分定刻に入るや歲旦祭は嚴さかに

のうちより降り積る白雪を蹴つて光州神社に集る府民は一萬にちかく流石に廣き神社境内も熱誠をこめる府民によつて埋まり朝七時卅

執り行はれ、知事、府尹の玉串奉奠についで文武官代表、道民代表の玉串奉奠があり、参列多數府民の敬虔なる總起ち繼儀への熱誠のうちに終了した

義戰へ本社の武裝
―半島航空界の權威を網羅―
新設航空部の威容

全太平洋の海と空とを賭して大東亞戰爭は爆發した、世界戰史に新らしき一頁を加へ、人類の凡ゆる豫想と思念とを根底から覆して無敵皇軍の往くところ海も空も障も懾伏せざるはなく、斯くて大東亞戰爭未曾有の戰果は正に時々刻々と擴大されてゆくのだ、この進擊、この威容を最も迅速詳細に讀者に報道する重大責務を有する本社では、この歷史的榮光の新年に當り報道報國の完璧を祈念して元旦號紙上社告の通り、航空部を新設した【寫眞＝京日號】

本社航空部の陣容は鳴元操縱局長眞原勝平氏を顧問に、加藤保一等操縱士、江東斗賛航空機關士、西原正秀航空通信士を配し、その使用機はフオツカー式スーパーユニバーサル型四百六十馬力八人乘、無電裝置、ビーチクラフト式一七E型二百八十五馬力四人乘二機で更に近く某方面の援助により最新銳高速機の購入が約束されてゐる、尚近く航空通信機設備をも急いでをり、之が完成の曉は航空部の新設と相俟つて新聞通信機械化報道陣の略完了を見たと謂ふべく大陸前衞基地の報道陣務遂行上

〝挺身・報道に盡す〟
眞原航空部顧問談

「私と御社とは大正末期から淺からぬ緣に結ばれて來た、それが京日航空部の新設といふ輝かしい事業として結實した、私としても、年來の念願だつた通信航空に乘り出すことが出來て、こんなに嬉しいことはない、粉骨碎身御社のため前衞半島のため挺身したい、御社は早くから航空に理解を持ち機械化報道陣の整備を心がけてをられたが大東亞戰爭の眞只中にこの事業を開始したことは眞實に堪へないこの上は世界の通信航空に貢獻するやう渾身の努力を傾ける覺悟である」

△顧問眞原勝平　前鮮航空事業社長、一等飛行機操縱士、二等航空士大正十一年宮城文中學

△部長加藤保

△部員江東斗賛

△部員西原正秀

砲に飾る南洋松
前線に正月樂しむ皇軍

【マレー前線〇〇一日同盟】シンガポール攻略の今日われらの正月とさる十日國境突破以來シンガポール目指して猛進擊を續けこゝに二日先方〇〇機械化精銳部隊は元旦の今日ペラ河東南方敵の要衝〇〇を突破戰鬪を浴びて前線五十キロを一氣に猛進、鐵の姫く疲れた四肢を〇〇河のほとりに休めた、見ればヤシ林の間を縫つて滴洞な小川が靜かに流れてゐる、勇士らはそれつとばかり小川の淵で戰鬪を拭ひぼうくくのびた髯面を見合すのだつた、話題は今日の元旦へと飛んで行く、故郷の

戰ふ柳川
（下）
城大教授　近藤峡村

メリケンの弛禪はルーズベルトなり

三、キンメル提督

7 【丙】「キンメル提督は戰死したのかと思つたら、やはり生きて居たんですね、然も軍法會議に附せられるとはよう出來てゐるな」

8 【甲】「奴さん、前の晩にダンスでもして八日の朝は日曜ぢやあるし、寢坊は朝寢坊でもしてゐたんぢやないかしら」

9 【丙】「でも日本は遂に讓歩するらしい、と打電して安心させたのはハル國務長官でせう」

【乙】「兎に角よい鴨ですね、少し讀みにくいきますかな」

7 軍法會議を何だらうかと床のなか

8 もしあなた大變よなどとゆり起こし

9 キンメルの女房は寢衣のまゝで逃げ

【丙】「新聞記事に、米國の婦人連が寢衣のまゝフラくしてゐたーとあつたのを川柳化して見たのですが…」

10 キンメルは寢ぼけ眼で窓をあけ

11 敵機かとベランダにて腰ぬかし

12 その當座汗びつしよりと鼠の夢

【甲】「みんなずいぶん樂人にしちや背景のもんですね」

四、ルーズヴエルト大統領

【乙】「併し大部スフガ入つてゐる、次にルーズヴエルトと行きますかね」

13 大統領鶴に向ひ拜をぶり

【甲】「大統領を大統領に利かせようとして見たが、どうもうまくいかん」

14 あの男見そこなつたとルーズいひ

【丙】「大統領はキンメル提督をとても信頼してゐたさうだが、」

15 いそこをねらつてみたんですがどうも

メリケンの弛禪はルーズヴエルトなり

【乙】「京日の名譽を借用したんですね、僕もそこを狙つて見たんです、一寸自信があるんですがね」

16 碧い眼で緊褌一番などぼやき

17 親父やと敵目だとルーズ本職ひ

【丙】「少し品が下つて來ましたね、併し今日の猶豫かも知れません、僕も一つ附けませう」

18 白木屋年末にせまつて値が上り

【乙】「この邊で鉾先をハル國務長官に向けますか」

四、ハル國務長官とノツクス海相

【甲】「いやノツクスも一緒に槍玉に上げませう、二人とも同罪ですよ」

19 來ハルと國務長官負け惜み

【甲】「米國太平洋艦隊再建の聲明を狙つたのでせうが、政治問題はむつかしいね僕も一つハル長官の下院における答辯を衝突つて見ました」

20 若干の損害ありとそつぽ向き

21 ハンケチで頰被りとは無理でせう

【丙】「なるほど、頰被りは手拭に限るね、米國人も餘りの醜態を知つてきたから、ハル長官らに手拭を貸してやらにや…」

壯絶！ハワイ戰實況 指揮官○○中佐歸還談

燃えつゝ、落ちつゝ、而も的確、我雷撃

あゝ、悲壯、この海鷲魂

〔○○にて一日同盟特派員發〕世界を驚倒させたハワイ海戰、あの奇襲作戰に海軍航空部隊を率ゐ、敢然眞珠灣上空に突入した航空部隊指揮官○○中佐はこのほど○○に歸還、記者と會見し壯烈無比の當時の状況を具さに物語つた、初めて公開される昭和十六年十二月八日のハワイ海戰實況である、この歷史的な大戰果を收めた指揮官であるやうな誇りは微塵もなく、まるで演習からでも歸つたやうな調子だ「海戰の時よりも、○○へ歸つて來てからの方が戰果が大きかつたことを知つた、有難い國だとつくづく思ふ」と、流石に日灼けした赤銅色の顔には部下思ひらしい溫容の笑を湛へてゐる、以下○○中佐の語るハワイ海戰の全貌である

攻撃命令下る！

私は今、大いに感激に包まれてゐる、形容の出來ない感激、しかしそれは我々が當然の責務を果し得た戰果を誇る氣持でもなく、いはんや生きて再び歸り來た感慨でもない、『ただ日本に生れ來つるものぞ、有難き御代に生を享けし喜び』この感激あるのみである、この氣持はおそらく獨り我が兵隊のみでなく

陛下の赤子 一億國民の全部に共通の氣持であらうと思ふ、かうした言ひ知れぬ感激のうちに、あの日の状況を語ることがハワイ上空に散つた忠勇なる部下の靈を幾分でも慰め、かつわれわれに絶えざる聲援を送つてくれた國民の期待に些かでも副ひ得られるとすれば、また望外の歡びとするところである

攻撃命令降る―われわれはいよいよ待ちに待つたオアフ島攻撃の命令を受取つた、誰しもが來るべきものがいよいよ來た―と、かう感じたとはいへ、流石に身内を流れる電光のやうな緊張を感じた、この時旗艦檣頭高く有名な日本海海戰の信號Z旗がするすると掲げられた、全員甲板に整列して仰ぎ見るZ旗

『皇國の興廢この一戰にあり、各員一層奮勵努力せよ』

日露戰爭以來、皇國の歩み來つた四十年の苦難の歷史を今こそ大洋上に賭して直すこの信號、敬禮とともに仰ぐ

三色のZ旗 は溢れる感激にかすんで、われわれはただ眦も裂くるばかりに『よしやるぞ』と鐵石の決心を固めたのであつた

續いてわれわれの航空部隊指揮官は『各員粉骨碎身、その任務を完了せよ』と訓示された、一生涯忘れることの出來ないこの信號旗が靜かに降されると、同時にわれわれの艦隊はたちまち全速力をあげてハワイ目指して驀進した、僚艦はまるで生ある者の如く動いた、次の瞬間先刻仰ぎ見た信號の感激とは違つたむしろ冷靜な必勝の信念が生れ、指揮官も將校も兵もみんな一樣に迅速な準備行動に專念してゐた

これ正に天佑

斷雲の間にお〻光るは眞珠灣

目的地に近づくに從つて將兵の士氣は大いに昂まり、戰はずしてすでに敵を呑むの概があつた、母艦は天候不良の難海を蹴らにひた走る、母艦の進んでゐる間にすべての戰備を終へねばならぬ、整備員も搭乗員と一緒に戰ふのだといつてわれわれに

白の鉢巻 を贈つてくれ、『準備の方は一切やります』といふ、われわれは十分の休養をとつた、遂にオアフ島近し、八日(ハワイでは七日)午前○時○○分、『出發命令』降る、この日の天候は不良、また晩觸の日も洩れぬ天空には一千五百メートルから二千メートルに密雲が蔽うて波浪また母艦舷側を洗ひ、普通ならば出發を見合はす状況であつたが、全員既定の集合を終へたのは僅か十五分後の午前○時○○分、いよいよ進發だ

一機また一機、前後左右激しく搖れる不安定な母艦甲板からはじかれるやうに飛び上つた『しつかりしつかり』私は次ぎ次ぎに飛び出して司令機の後に續く部下たちを勵ました、しかし私は全軍の指揮官として己れの職責の重大さを敵地近くなるに從つていよいよ痛感した

四千海里と いふ永く苦しき長途の航行で、しかも幾分の誤差はなかつたか、もし誤差があるとオアフ島に取りつけぬやうなことになるかも知れぬ一沫の不安が私の腦裡をかすめていつた

何時もなら天候不良の場合でも南洋方面の海面は三十海里も五十海里も遠望がきくし、時間にして三四十分も前から目標は見えるはずだ、殊にハワイは千メートル位の山脈があるのだから、少くとも二十分前には見えるはずだ、表面平靜に指揮してゐても私の焦燥は次第に昂まつた、眼下に海岸線が波に洗はれて見えるではないか、間違ひなかつた、此處だ！人知れぬ安堵とともにまた新しい勇氣がほつほつと湧いて來た、見よ斷雲の間から發見されるオアフ島の敵飛行場もすぐ眞下だ、全部隊に翻回を命じた

必中の魚雷飛ぶ

いまゝで編隊態形で近接して來たのが一齊に散開した、各隊はその任務の相異によつて高度を上げあるひは下げて攻撃態勢に入る、私は大型爆撃機隊を直率してオアフ島の西側を廻つて次第に

敵の本據へ 接近する、オアフ島は東西に山脈地帶を控へ中央は平地であるが、その平地方面が斷雲の間に認められ、眞珠灣はわれわれを歡迎するかのやうに雲間から現れる日に海面を反射させてゐる、これまさに天佑、私は双眼鏡をとつて、この晴れる多年の宿敵を心靜かに偵察して、主力艦の在泊してゐるのを確認した、あれを屠らば一死また悔ゆるなしと澄み切つた氣持で『全員突撃』を下令した、いよいよ敵艦に攻撃開始、いまこそ大命を奉じて宿敵を撃つ、多年の訓練も今たつたこの一時のためだつた、雷撃機隊が先づ斷雲を突き拔けるやうにして眞つ先に突つ込んで行つた

頭領○○少佐の率ゐる○○雷撃機隊は、[illegible]

し眞珠灣は海面が淺くかつ狹隘、雷撃は難行中の難事だ、ふと下を見ると海面すれすれに下降した雷撃機が放つた

水雷が二本

白い尾を引いて敵に突き進んで行く『あしやつたぞ』思はず叫ぶ、間もなく主力艦の舷側から物凄い水柱が立上つた、命中だ！命中だ、四本、五本…雷撃隊が放つ捨身の魚雷は一發必殺の信念をこめて、魔神の如く進んで白い魚雷の背がしばらく續くと見るや、大水柱が幾本も中空高く吹き上げる、時間にして僅か三、四分の間であつたらうか、私は果敢な雷撃機隊の攻撃が濟むまで見守りたかつたが、別の任務を遂行せねばならぬ

『敵の戰鬪機はまだ上つて來ぬか』

『防禦陣地からの對空射撃はまだか』

ハワイはまだ眠つてゐた、緑の樹木に圍まれた市街からも、また必殺の魚雷を射ちこまれた敵艦からもなんの應射もない

けて舞ひ下りる、多年の訓練と自信に物をいはせての腕だ、しか

奇襲に成功せり

これでいよいよ奇襲成功を確認し『われ奇襲に成功せり』の第一報を母艦へ打電した、續いて急降下爆撃機隊が雲の上から戰鬪の

眞つ只中へ 突つ込んで來た、しばらくすると敵飛行場の格納庫、地上に並んでゐる飛行機の脊がちらと見えたと思ふ間もなくたちまち濛々たる黑煙に遮られてしまつた、戰鬪は展開されわれに有利に展開しつゝある

『獰猛の敵高角砲吼ゆ』

もう雷撃隊と急降下爆撃機は思ふ存分第一擊を加へた頃、機首を轉じて新目標に向ふとやうやく敵の高角砲彈がわれわれの周圍に炸裂し出した

『なにくそつ、こんどは大型爆彈の洗禮だ』

私は隊列の陣頭に立つて眼下に擴がる敵艦を狙つたが、氣流は惡い、水平爆撃の標準が定まらぬ、無駄彈を落しちやいかん、高射砲彈の飛び交ふ中を後續部隊もその他の部隊も悠々降り直した

見ると爆炎火の柱が五百メートルも天に冲してゐる、敵戰艦の火藥庫に命中したのだ

後で分つたのだが、雷撃機隊、急降下爆撃機隊、戰鬪機隊、爆撃機隊、それから空中からよりは數倍も困難な

特殊潛航艇 の緊密な連絡戰鬪が發揮した素晴しい戰果の一であつた、命中した敵艦が瞬時に大爆發を起して艦體が眞つ二つに裂け夥しい油を海面に浮かして轟沈した、確に今のはアリゾナ型だ、機上で思はず萬歳を絶叫する、敵の死物狂ひの高角砲はやうやく頻になり、編隊の周圍に石飛礫でも投げ交すやうに炸裂する、司令機の左胴體に大きな穴が空いた、後に續く五番機にも中つたとみえてタンクからガソリンが噴出してゐる、しかしなほも續いて來る、さつと攻撃が終了してから自爆する決心だと思ひ『狀況知らせ』と信號をやると『補助タンクのみ』との返答には激戰のさ中にも非常に嬉しく思はれた

敵機悉く火達磨

[illegible]第二の目標である格納庫と並べてある飛行機が二機も餘さず行儀よく燃え盛つてゐる天をも焦がす黑煙を吐きながら、[illegible]われわれは何時でも歌ひつづけた

急降下爆撃

機隊と戰鬪機隊の猛攻によるのだ、敵艦を圍り、機首をめぐらして眞珠灣上空に再び差しかゝつた、敵の戰鬪機は一列つつまるで鎖でも縛られたやうに並んでゐる、こんな好都合なことはない、一隊が、片側を狙ふと他の一隊は反對側の艦に襲ひかかる、なんのことはない、爆撃演習の目標そのまゝだ、雷撃機がさつと襲ひかかる、間髪を入れず急降下爆撃機が、續いてわれわれの爆撃が間斷なく集中され、雨と飛び交ふ地上彈の中をかいくぐつて襲撃するのだが、狹い海面のため五百メートルか三百メートルの近距離から射つしかも編隊雷撃は出來ぬ、必中戰機雷撃である一番機が攻撃すると六十メートルから百メートルも水柱が立ち、スプリンターが飛ぶ、これで後續機が進んでは被害をうけるので二番機のスプリンターが納まつた時を見て次が行く、だから敵の高角砲彈に曝される時間が長い、しかもなほ敢然として攻撃する

海鷲精神の

尊さ、最後に攻撃した雷撃隊の如きはその最も壯なるものであつた、魚雷を落す、機首を立ち向ける瞬間、敵の砲火をうけて火焰に包まれ火達磨となりながらも精密な魚雷發射をつづけ、最後に敵艦目掛けて轟然と自爆したのを、私はこの目でしかと見た、しかも後からくこの突撃を繰返すのだ

『諸士多年の訓練による實力はすでに練成されたり、諸士は十年兵を養ふは今日これを用ひんがためなるを想起し』

われわれの出發に際して與へられた長官の訓示が、今は私の目の前で實證されてゐる、攻撃の目的を果して引揚げ んとする見事な命中彈のために醜い艦腹を曝して沈沒しつゝある戰艦二隻また四十三度に傾斜して刻々に沈んで行く他の一隻はすでに艦體を切斷されて、今はどす黑い油を殘すのみで、さらに今一つ大破した三隻の戰艦が炎々として燃え、フオード島海岸の敵艦は悉く傷ついたのだ

敵艦隊全滅！

『太平洋艦隊全滅す』第一次攻撃の時間は實に數十時間の長さにも思はれた、何時の間にかハワイ上空に朝日が射して數十年の劫火燃える米の戰略據點は斷末魔の形相を白日のもとに曝してゐた、全隊集結の令を發してから私は歸途上空で燃料の許す限り

歸らぬ部下

を待つた、壯烈な自爆を見屆けてもなほあきらめきれず、今にも燃える黑煙の中から日の丸の銀翼を翻して颯爽と歸つて來るのだと信じてゐたからだ、われわれが母艦に引揚げるのと同時に第二次奇襲部隊が出發した、第一次攻撃で比較的手を弛めた敵の殘存艦艇を射止めるべく第一次よりさらに激しい防禦砲火を冒して勇躍出動した、かくして北東十七メートルの强風を衝いて決行したわれらの奇襲は成功した、御稜威のもと、天佑神助の加護を得てわれらは悔いなきまでに戰つたのだ、再び歸るまじと思つた母艦の甲板に整列したつはものの運は炎々と燃えるハワイを背に東方に向つて高らかに萬歳を三唱

『海行かばみづく屍大君の邊にこそ死なめ、かへりみはせじ』

歌はぬ勝利 【107】

山中峯太郎【作】 高木清【畫】

情 (二)

――わたくしは竹内公子、お母さまは今、竹内の家にゐます。さういふ公子を母の由喜は目の前に見ると、身も世もない切なさに息づまる思ひして、

『いゝえ……』

ぴつたりと公子の顔を見つめると、ほとばしつて出た言葉は、いつも思ひに思つてゐることだつた。

『籍が戸籍が、竹内さんにあるでは、決してないのですのよ、元は金子といつて、今は藤谷の方へ、あたしといつしよに、籍がちやんと入つてゐるのですから、あなたは元から、あたしの……』

――子……娘、といひかけて、母の由喜は、おろおろしたまゝ言葉が切れ、この公子から只の一言でも『お母さん』と呼んでほしい、十六年の間の切ない望みに、わなわなと辛く身もだえした。

――籍……金子……藤谷……

さういふ思ひがけない言葉に公子は、渦まくやうな惑はしさを感じて、

『……』

『……いけません、そんなこと』

強くさう云はうとしながら、唇が動かずに、帯のあひだに自分のハンケチがよごれてゐるのを見るなり、ハツと云ひ知れない衝撃を一時に感じた。

――洗つてゐなかつた ハンケチ、きたなく涙によごれてしまつてる、それを帯の間に入れて、抱きしめてゐる人……この人こそ、お母さまではないの。

生れて初めて受けた溫かい感じ、かぎりなく深い溫かさ、親身な感じがこのハンケチから一時に公子の胸へ押しよせて、

『……』

何かまた云はうとしながら、も う、何とも云はずに、公子は、眩ひするやうになると、自分も知らずにその人の前から横へ身をよけると、

『さよなら……』

知らずにさう云ひながら、前の方へ悄然と走り出した。その人の前に立つてはゐられない發作からであつた。

ふるへる唇をつぐんだきりこの時ひしひしと胸さきへ押しよせてきた疑ひに烈しく打たれた。

――では、わたしの本當のお父さまは……これをお母さま……家にいらつしやるお母さまからは聞いてゐなかつた、ほんたうのお父さま、それは どこの 誰だらう……

と、おもつた途端に烈しい疑惑に渦まかれて、不意に目の前が暗くなり、手にもつてゐた、ハンケチが、足もとへ落ちたのも知らなかつた。

下駄をはいてゐる公子の素足の前へ、はらりと落ちた ハンケチを、母の由喜は見るなり、おもはずうつむいて拾ひあげた。ぐつしよりと涙にぬれてゐる――娘の……わたしの子の涙、と、それを握りしめると、

『お……お嬢さま、これを……』

と、前にさし出しながら、まだ『お嬢さま』といはずにはゐられないのが、と、なほさら自分の情なさに身を裂かれる やうな氣がして、『これを……いたゞかせて』

と、いふなり公子の涙にぬれてゐるハンケチをそのまゝ自分の帯のあひだへおもはず抱きしめて揉み入れると、しつかりと上からおさへた。

公子は目の前に『お母さま』と自分でいふ人の顔と言葉と、ハンケチを帯のあひだへ入れたり抱いてゐるのを涙のうちから見ると、

『公子……』

隆の呼ぶ聲が走り出した公子の耳に、かすかに聞えた。